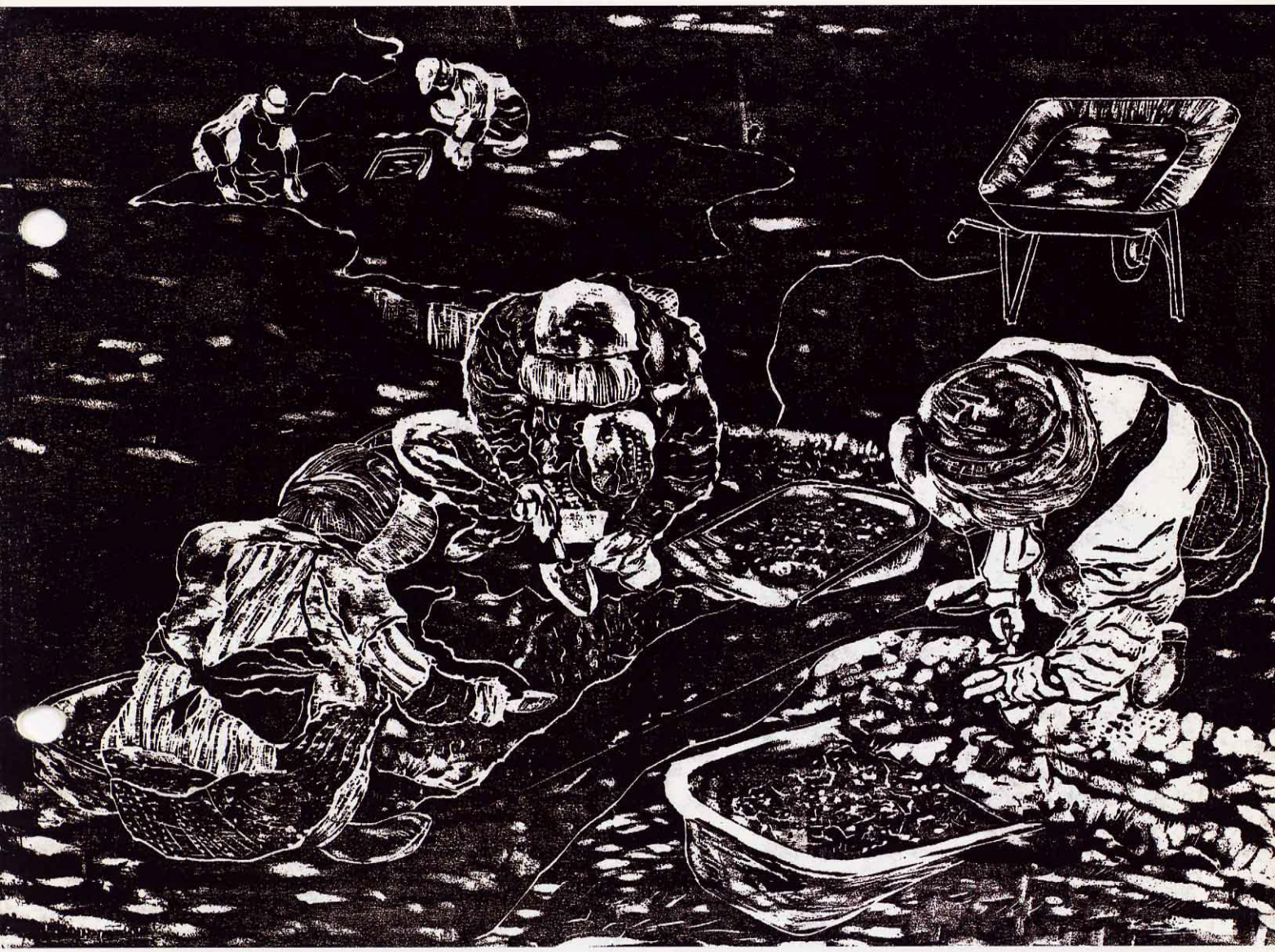
ISSN 1341-4046

埋文やまがた

1996年8月1日
第5号



「発掘情景　ー荒川2遺跡にてー」　米沢市徳町　佐藤高義

財団法人　山形県埋蔵文化財センター
YAMAGATA PREFECTURE ARCHAEOLOGY CENTER
〒999-31　山形県上山市弁天二丁目15番1号　TEL 0236-72-5301㈹　FAX 0236-72-5586

平成8年度の事業概要

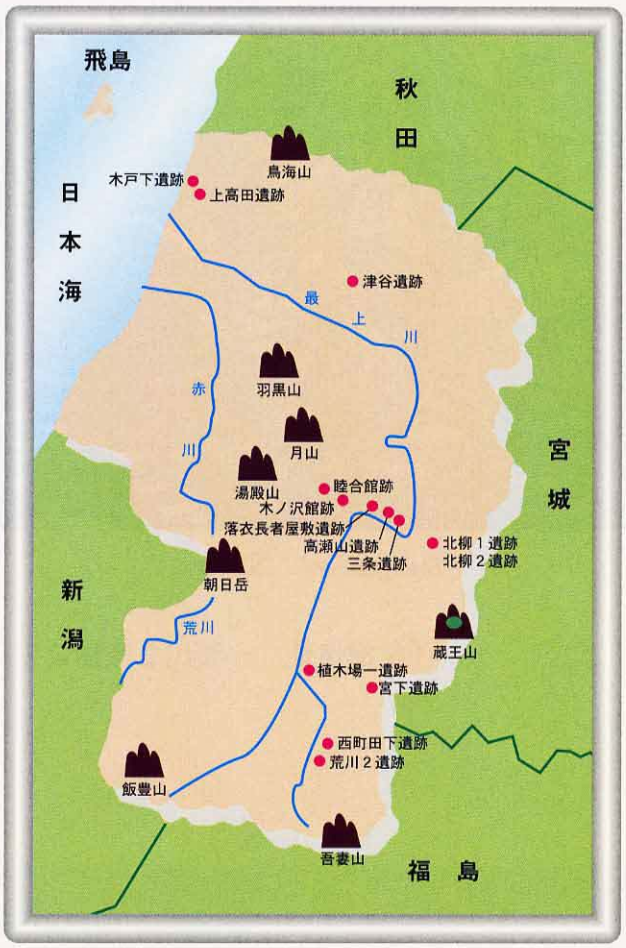
1．埋蔵文化財の発掘調査事業

発掘調査は日本道路公団・山形県から委託を受け，高速道路や一般道の建設整備に先だって実施します．
今年度は17遺跡，面積にして158,400平方mの調査が予定されています．

	市町村	遺跡名	時代区分	定義	調査面積：平方m	現地調査期間 開始		終了
1	米沢市	荒川2遺跡	平　安	集落跡	12,300	5/ 9	～	9/28
2	〃	西町田下遺跡	〃	〃	9,800	5/ 9	～	11/ 1
3	遊佐町	木戸下遺跡	〃	〃	1,800	5/ 8	～	6/22
4	〃	上高田遺跡	〃	〃	2,790	5/ 8	～	9/14
5	戸沢村	津谷遺跡	縄　紋	〃	2,080	5/ 8	～	7/19
6	南陽市	植木場一遺跡	〃	〃	3,000	9/ 3	～	11/30
7	高畠町	宮下遺跡	〃	〃	1,500	7/ 9	～	9/13
8	山形市	北柳1遺跡	〃	〃	8,500	5/ 9	～	9/ 7
9	〃	北柳2遺跡	〃	〃				
10	寒河江市	高瀬山遺跡（HO）	奈　良	〃	4,200	11/ 6	～	12/19
11	〃	三条遺跡	縄紋～平安	〃	16,900	4/23	～	11/ 1
12	〃	高瀬山遺跡（1期）	旧石器～平安	〃	12,130	4/23	～	11/14
13	〃	高瀬山遺跡（2期）	縄紋～平安	〃	41,700	4/25	～	11/14
14	〃	高瀬山遺跡（SA）	〃	〃	10,000	7/25	～	11/13
15	〃	落衣長者屋敷遺跡	平安～中世	〃	17,700	4/24	～	7/17
16	〃	木ノ沢楯跡	〃	城館跡	3,200	5/ 9	～	7/18
17	西川町	睦合館跡	中　世	〃	10,800	7/25	～	11/ 1

津谷遺跡、竪穴建物跡検出状況

津谷遺跡調査説明会



２．整理・報告書作成事業

発掘調査の成果を報告書にまとめ，保存と活用及び保護思想の普及に役立てます．
整理・報告書作成作業は４月から来年３月までかけておこなわれます．

	市町村	遺跡名	時代区分	定義	出土文化財：箱	事業内容	
1	西川町	山居遺跡	縄　紋	集落跡	1,215	報告書作成	（９年度刊行）
2	〃	水沢館跡	中　世	城館跡	1	報告書印刷	（８年度刊行）
3	〃	横岫楯跡	近　世	〃	1	〃	（８年度刊行）
4	寒河江市	平野山古窯跡群12地点	平　安	窯　跡	750	報告書作成	（９年度刊行）
5	〃	高松II遺跡	〃	集落跡	45	整理作業	
6	〃	高松III遺跡	〃	〃	22	〃	
7	〃	富山遺跡	旧石器	生産跡	250	報告書作成	（８年度刊行）
8	〃	富山２遺跡	平　安	集落跡	25	〃	（　〃　）
9	朝日村	野新田遺跡	縄　紋	〃	404	報告書印刷	（　〃　）
10	鶴岡市	後田遺跡	平安～中世	〃	52	〃	（　〃　）
11	〃	大道下遺跡	平　安	〃	1	〃	（　〃　）
12	〃	塔の腰遺跡	平安～中世	〃	40	報告書作成	（　〃　）
13	酒田市	土崎遺跡	〃	〃	25	〃	（　〃　）
14	〃	梵天塚遺跡	〃	〃	22	〃	（　〃　）
15	〃	中谷地遺跡	平　安	〃	26	〃	（　〃　）

３．研究・普及事業

埋蔵文化財保護に関する研究と保護思想の普及を目的とした活動をおこなってます．

■調査説明会

発掘調査している遺跡で説明会を開催します．また調査説明資料を刊行して配布します．

■出土文化財の保管と活用

出土文化財及び調査記録写真の展示会等への貸出をおこなっています．

■情報資料の収集活用

図書データベースの作成，遺跡データベースの研究などをしています．

■広報誌・年報の発行

埋蔵文化財に関する情報，調査研究の成果を紹介してます．

■全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会の開催

10月３・４日に全埋文協の研修会が，山形市を会場に開かれます．メインテーマは災害と考古学です．

富山遺跡の石器剥片接合作業

山居遺跡の土器復元作業

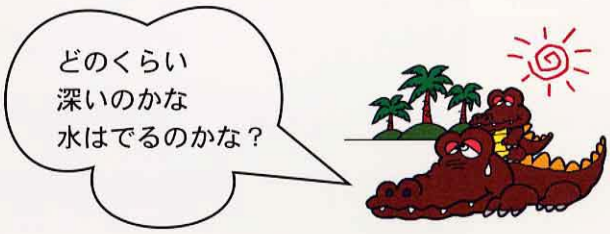
遺跡トピックス

落衣長者屋敷遺跡は，寒河江市街地の南西に位置しています．ちょうど高瀬山遺跡の西隣にあたります．1994年から今年にかけて東北横断自動車道酒田線の建設に先立って発掘調査をおこないました．

奈良時代から平安時代にかけての集落跡のほか，室町時代この地に創建されたと伝えられる巨海院というお寺跡との関連が注目されるいくつかの発見がありました．

ここで紹介する石井の井戸跡もそのひとつで，県内での調査例は非常に少なく，その構造を知るうえで貴重な成果が得られました．

▲　何の穴かと半分掘ってみれば？
中からたくさん石がでてきました．



▲　さらに広げると，拳より大きい石が環になってでてきました．石組みの井戸のようです．

▶　石組みがあるため井戸の外側から掘り始めます．
ベルトコンベアーをつかい，掘った土を運び出します．
とても大がかりな調査です．
アルミ製の電動式ベルトコンベアーなのでうるさくありません．

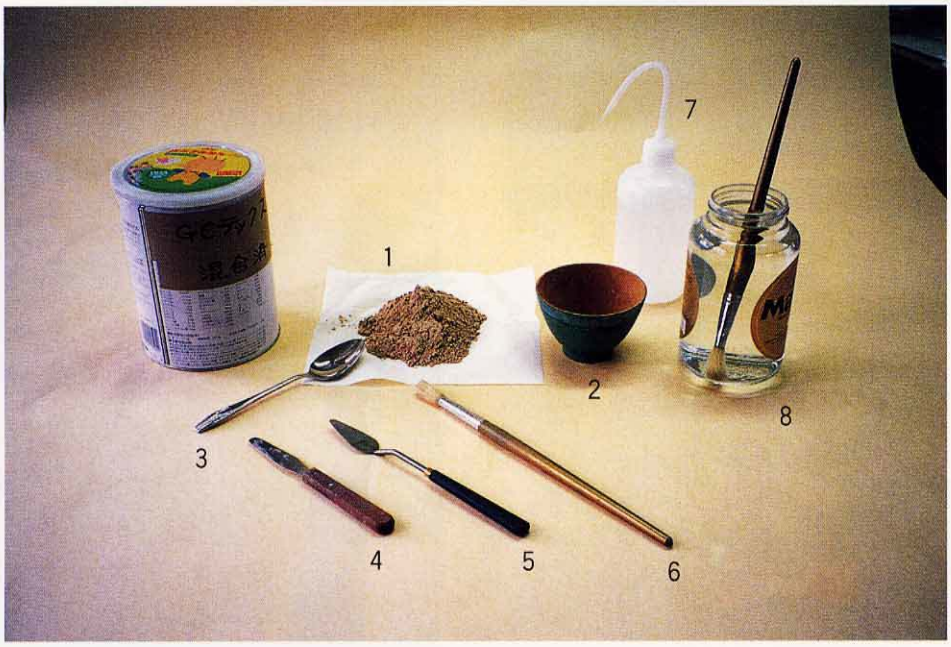
▲　落衣長者屋敷遺跡の調査状況を東から見ています．奥に雪帽子の「月山」が望めます．

▼　だいぶ石組みの井戸側が見えてきました．
川原石を使い，しっかりと積み上げています．
石組みを平面から見ると，内径70cm，外形130cm，放射状に約20個で一周するように作られています．
川原石は扁平なものを使用しています．長径30cm短径15cm前後，厚さ12cm前後，重さ5kgほどです．

▲　ようやく掘り上がりました．ここまでくるのに約10日間かかりました．
井戸のまわりの土の堆積状況もよくわかります．
井戸の規模は掘り方が東西3.2m，南北2.5mの楕円形で，深さは3.1mあります．
井側の内径は70cmあります．
おしいことに上段は崩れ落ちていましたが，残っているところで石組は26段まで数えられました．

（黒坂雅人）

土器の修復作業



修復の材料と用具

1　修復材料 G.C.テックス（空き缶に入れています）
2　ゴム椀（通常は石膏を溶く容器です）
3　スプーン（大きい方が扱いやすいです）
4　パレットナイフ（油彩画用の刃が長くないもの）
5　ペインティングナイフ（油彩画用）
6　画筆（アクリル絵具用）
7　水差し（水の量の調整が楽です）
8　水入れ容器（コヒーの空き瓶などでよいです）

▲　G.C.テックスをスプーンでゴム椀に適量とります.

▲　水を少しずつ加えます.

アイスクリームより少々固いくらいに，▶
パレットナイフでよく混ぜ合わせます.

◀土器の内側にしっかりと受け型を作り，伸縮包帯などで固定します．パレットナイフやペインティングナイフでG.C.テックスを充填していきます．

▲　乾いた後に削らなくても良いように，きれいにヘラで撫でたり，紋様を付けて仕上げていきます．

▲　全体のバランスを考えながら，慎重に修復作業が進められます．

さあ，そして完成です．充実感▶に満ちた誇らしげな顔！

■従来の土器の復元方法

これまで土器の復元は，破片を接着剤で接合し，欠損部分に石膏を補充する方法が一般におこなわれてきました．しかし石膏自体が抱える耐久性と強度の不足，質感の違い，作業性の悪さなどの欠点がありました．とくに作業性は難易度が高く，作業員の技術に頼る面が多いものです．手先の器用な人は上手くでき，そうでも無い人は土器を真っ白くしてしまうようなことも起こっていました．

■土器修復材料としての条件

1．長期の保管にも耐えられるように，十分な強度と耐久性を保つこと．

2．土器の材質や状態に合わせて，強度，質感などを変化させられること．

3．修復する土器の状態に合わせて成形，加工，補彩等の作業が簡単におこなえて作業の安全性も高いこと．

4．補修したあとでも，必要に応じて土器から取り外し，再修理が可能なこと．

■新しい土器修復材料

以上の条件を満たすことを目的に新たに土器修復材料が開発されました．

新しい土器の修復材料は，特殊モルタル（エレホン#415）とEVA（エチレン酢酸ビニールエマルジョン）という合成樹脂ポリマーに，シラスマイクロバルーンと水を混合して硬化させるものです．これは硬化した後でも切削が可能なものです．

効果は強い接着力，強度と耐久性，土器に類似した多孔質の質感，そして作業性の向上が上げられます．

とくに石膏のように土器を汚すことなく簡単に充填でき，硬化段階に合わせて各種の加工や施紋ができる利点があります．

参考資料：今津節生「石膏にかわる土器の修復材料」1993年12月21日より

重要文化財の指定

平成8年6月27日付文部省告示第129号により，高畠町押出遺跡出土の彩漆土器ほかが，国の重要文化財に指定されました．

米沢盆地北東部の高畠町は，日向洞穴をはじめとする縄紋時代の起源にかかわる多くの洞穴遺跡が点在しています．この蔵王連峰の山裾に開けた平野部には，大谷地と呼ばれる泥炭層地帯が広がっています．

押出遺跡では昭和60年からの3カ年の調査で，この泥炭層中に縄紋時代のムラがそのまま埋もれていることが判明しました．特に写真の彩漆土器をはじめとする漆製品には目を見張るものがあります．

深鉢形土器

赤漆櫛（くし）残欠

彩漆（さいしつ）土器

口縁部に列孔がめぐり胴部が球形に張る鉢の外面全体に赤漆がかけられ，さらにその上に黒漆の細線で渦巻き紋様を描いた土器です．縄紋時代の漆工芸の水準を示す貴重な資料といえます．高さ15.5cm　径23.6cm．

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館では平成8年10月1日から11月30日まで押出遺跡の特別展が開かれます．詳細は☎0238－52－2585（資料館）まで．

発掘の歌（壱）

よくやった主任の言葉嬉しかり貴重な木簡今見いでたり

一杯のこの氷水この一服の旨さ三十六度の夏の日なれば

これほどに我を捉えむ発掘よ夢の中にも時に追い来る

酒田市手蔵田　伊藤　薫

表紙によせて

佐藤高義（米沢市徳町）

遺跡発掘の作業も順調に進み，今日は待ちに待った移植コテでの土おこしだ．皆の顔も何か期待で輝いている．土の粒一つ一つに目を光らせ，丹念に掘り探る手にも自然に力がこもる．

これは中世人のロマンに浸れる尊い仕事だ．カチン！と異様な音に，作業員みんなの視線がコテ先に集まる．「あっ土器だ！」少しずつ姿を現す土器にも掘る人ならではの感動が伝わってくる．

いにしえ人の生活の知恵に触れた喜びに，疲れも忘れて粘っこい土を採っては箕に収める貴重な体験を，私は生涯忘れることはない．

編集後記

今年は暑くなるのが心持ち遅く，今月に入りようやくミンミンゼミの声が聞こえてきました．発掘調査も最盛期を迎え，どんな未知のものがでてくるのか，そしてそれを皆さんに紹介するのが楽しみです．ただいま10月の全埋文協の研修会の準備に精力を傾けています．（郊）